

## 平成30年度 第1回精華町まちづくり基本構想策定懇話会

日 時	平成30年12月11日(火) 15時30分～17時30分
場 所	精華町役場 5階 501・502 会議室
出席者	<p>[懇話会委員]</p> <p>宗田委員 (座長)                      多々納委員 (副座長)                      山本委員</p> <p>高鍋委員                                      井原委員                                      福味委員</p> <p>[オブザーバー]</p> <p>近畿中部防衛局                      井上課長補佐                                      山戸主事</p>
傍聴人	なし
事務局	岩崎 教育部長、浦本 総務部次長、竹島 学校教育課長、石崎 生涯学習課長、上原 学校教育課係長
事務支援	中日本建設コンサルタント(株) 佐々木、岩脇、柴田、都築
内 容	<p>■ 開会</p> <p>○教育長挨拶</p> <p>○出席者紹介</p> <p>■ 座長及び副座長の選出</p> <p>■ 議題</p> <p>1. 精華町まちづくり基本構想の目的等について</p> <p>2. 住民意向調査の実施について</p> <p>3. その他</p> <p>■ 閉会</p>

<p>■開会</p>	<p>○教育長あいさつ</p> <p>精華町まちづくり基本構想策定に際して、専門的な知見や各団体の立場また皆様個人の豊富な経験などから意見をいただきと考えている。</p> <p>今回のまちづくり基本構想については、防衛省の支援により実施するものである。</p> <p>教育委員会としては、この間、児童・生徒の命を守り、安全安心と快適な教育環境の整備に注力してきており、学校施設の耐震化率100%を達成し、小・中学校への空調設備の整備についても完了間近となっている。</p> <p>このような状況において、現在、本町教育行政における最大の課題となっているのは中学校給食の導入である。また、生涯学習施設の整備改修についても課題となっているが、特に打越台については、隣接する打越台環境センターの跡地利</p>
------------	---

	<p>用を含めた一体利用についても検討する必要がある。</p> <p>今回のまちづくり基本構想策定については、教育委員会の所管の事務における課題解決を視野に入れるとともに、本町北部地域の発展に資するような計画をしたい。委員各位におかれては、本町の将来を見据え、活発なご議論をしていただき、提言をいただければと考えている。</p> <p>○委員紹介</p> <p>出席者名簿に基づき委員の紹介が行われた。</p> <p>委員6名全員の出席により、過半数を上回っていることから、本懇話会は成立。</p>
<p>■座長及び副座長の選任</p>	<p>「精華町まちづくり基本構想策定懇話会設置要綱」第5条第1項及び第2項の規定により、座長及び副座長を選任。</p> <p>座長に宗田委員、副座長に多々納委員が選任された。</p> <p>○宗田座長あいさつ</p> <p>この種の委員会は皆さんの議論をどれだけ活発にできるかということが大事である。議長役は、皆さんにできるだけリラックスしてもらって、町の将来や自分以外の町の皆さんのことをよく考えていただき、お互いの善意を引き出すのがポイントである。</p> <p>今回は、地域が防衛施設をどう受け入れるかという稀なテーマであり、皆さんと一緒に熟議を重ねていきたい。</p> <p>○多々納副座長あいさつ</p> <p>今回は、防災の話と教育の両方を考えるということになる。この地域は主として木津川の氾濫があり、地震に関しても若干危険な地域もあるが、対応したレベルの高い防災が可能になればと考えている。</p>
<p>■議題</p>	<p>1. 精華町まちづくり基本構想の目的等について</p> <p>&lt;「まちづくり構想策定の概要」について説明&gt;</p> <p>&lt;「資料1」について説明&gt;</p> <p>&lt;「資料2」について説明&gt;</p>
<p>宗田座長</p>	<p>せっかくの機会なので、皆さんが考える町の問題について、順番にご意見などをいただければと思う。</p>
<p>井原委員</p>	<p>当初は交通インフラの課題や商業施設などもなく様々な不便があり、大手企業の撤退もあった。しかし、その後、学研推進機構や京都府、地元自治体が規制緩和等を行い、企業の立地が進むとともに、商業施設も立地し、活性化傾向にあると思う。</p>

山本委員	<p>私は光台在住であるが、アピタやコーナンがあり、最近ではラムーなども立地し、これまでとは逆に奈良の方から買い物に来るような流れもあり、精華町がクラスターのコアになっていると思う。</p> <p>当初は、大手企業の立地だけで進んだが、一部企業の撤退や建設が予定通り進まないなど、手詰まりの状況となっていた。そこで、規制緩和を行い、研究だけでなく多少の生産はOKにしたことで、中小企業が進出して用地はほぼ埋まっている。三菱UFJ銀行や日本電産など大手の進出もあり、新しい流れになっているのが実感である。</p>
井原委員	<p>ただ、残念なのは、多くの企業が立地したが従業員が精華町に住んでいないということ。だから、町外から通勤するのに交通の便を良くしてほしいという意見が多いのではないか。従業員が地域に根付くような形が出来ると変わってくると思う。</p> <p>光台、精華台ともに現在は利便性が向上し、まちとして成熟してきている。ただし、2、30年先には高齢化が一気に進む状況になるため、そこに新しいサイクルを持ち込む必要がある。</p>
宗田座長	<p>日本全体として人口は減少傾向にあり、増えたとすれば外国人となる。製造業では人手不足で非常に悩んでいる状況にある。</p> <p>また、東日本大震災の以降の企業の方針として、製造拠点を東西に分けること、なるべく都心に近いところに拠点を作ること、海からできるだけ遠いこと、この3点があり、それが原因で学研への立地が進んでいる。ただ、井原委員の話のとおり、従業員の居住が進まず、自然人口増も望めないのでは、いずれ精華町も人口減少に向かうと考えられる。</p> <p>今後、外国の方をどれだけ入れ込むのかという話も出てくると思う。</p>
井原委員	<p>現在の学研企業の中では、特にATR（国際電気通信基礎技術研究所）には外国の方が多いと思う。ただ、今後を考えると、製造業としては外国の方を雇わざるを得ない状況が出てくるのではないか。</p> <p>そうすると、この地域も外国の方とどう共生するかという視点からの投資や政策についても行って欲しい。例えば、外国の方と日本人が融合していくようなコミュニティに関する政策。ほかには日本語教育や地域一体となって生活を楽しんでいくような雰囲気を作るなど。</p>
宗田座長	今の精華町の外国籍の児童数はどうか？
事務局	児童数としては少ない。

山本委員	<p>精華町の場合は、今、国で議論になっている製造現場での労働者ではなく、研究開発が主体なので少し違うと思う。ただし、今後については増加する可能性があると思う。</p>
井原委員	<p>中小企業の立場から言えば、外国の方を労働者として雇用した場合、困るのは住居と日本語の問題である。そういうところについて、精華町の地域の中で皆が協力して助け合っていくことができれば、外国の方も住みやすいし増えていくのではないかと。</p>
福味委員	<p>今回のまちづくり基本構想の中には、施設整備の検討が含まれているが、防災に関連することを前提としていることから、総合計画で定める「安全・安心で健康やかな暮らしのまちづくり」の実現を目指すことになると思う。現在、町では、健康や子育てに関連して様々な活動を行っているが、活動場所がバラバラなこともあり、それぞれの活動につながりがない。</p> <p>例えば子育てを例にとると、検診は保健センター、子育て活動はこまだ保育所にある子育て支援センターとなっている。</p> <p>可能であるならば、今回のまちづくり基本構想において、保健、子育て、食育などを含めた健康に関する総合的な拠点の整備についても位置付けができないだろうか。</p>
宗田座長	<p>それでは事務局に町内の子育て支援の活動や保育所などについて資料をお願いしたい。この件については、資料が揃い次第、話をしたい。</p> <p>施設を統合する方が良いかどうかは難しいところではあるが、それをしようと思うと、NPOや社会福祉協議会などの力強い参画が必要になると思うが、いかがか。</p>
福味委員	<p>それは必要だと思う。</p> <p>特に、防災ということを考えると、そのような健康に関する総合的な拠点について、災害時にはボランティアや医療関係などの支援の受け皿などとしても活用できるような拠点として整備することも考えられる。</p> <p>現在、精華町でそのような拠点を作ろうという動きもあるため、まちづくりの構想の中に位置づけて連携を図ることが必要だと思う。</p>
宗田座長	<p>その意見は重要で、教育委員会だけで構想を策定しても、先ほどもあったように連携が上手くいかず、施設を作っただけで終わる可能性もある。</p>
高鍋委員	<p>精華町は、人材も施設も資源も豊富にあると思う。恵まれた状況にありながら、それがスムーズに機能したり連携したりできないのは、仕組みや組織、システムに問題があるのではないかと。</p>

	<p>福味委員のお話にあったとおり、バラバラにあるものをどこかで一本化することや連携することで、活動がスムーズになるのではないかと思います。</p> <p>防災に関連して、東日本大震災の際にボランティアに参加したが、パソコンや携帯など、様々な便利な機器があるのに活用できず、折角、人手があるにもかかわらず情報が入らなかったり、連絡ミスがあったりして本当に必要な場所に行くことができず、まどろっこしさを感じた。</p> <p>また、阪神淡路大震災の時の話として、淡路島は震源に近かったにもかかわらず亡くなった方が少なかった。その理由としては、地域の連携があって、独り暮らしの高齢者がどこに住んでいるかなどを近所の人が把握できていて、声かけや助け合いができたとのことである。一方、都市部では多くの方が住んでいるにも関わらず、隣に住んでいる人も分からない状態で被害が拡大したと聞いている。</p> <p>日本としてそれだけの経験をしているにも関わらず、私の住む地域では自治会は任意加入で、加入率も減少傾向にある。自治会活動に対しても苦情が出ることもある。学校に関しても、本当は地域に開かれた学校で、学校と地域が協力して子どもを守り育てなければならないのに、不審者などの問題で逆の方向に進んでしまっている。そのような一人ひとりの意識から立て直す必要があるのではないかと思います。</p>
宗田座長	<p>今のお話の中で、自治会の加入率に関することがあったが、精華町の加入率は分かるか。全国平均は70～75%ぐらいだと思うが。</p>
事務局	<p>町全体では80%を上回る程度である。ただし地域によっては50%前後のところもある。</p>
宗田座長	<p>全体では80%を超えているとのことだが、一般的に言うと旧村は非常に高いと考えられる。ただ、一部地域では非常に低く、苦情もくるという状況になっている。基本構想の策定において、その加入率を上げるという方向を目指していかなければならないが、どうすれば上がるのかということは難しい問題である。</p> <p>先ほどの話に関連すると、自治会の加入率が上がれば子育ての支援もできるし、災害が起こっても声かけや安否確認ができるし、それがみんな繋がってくと思う。そのあたりの取り組みが見えるようにして、自治会加入率を上げていく方向にもっていく必要があるのではないかと。</p> <p>そこに地元企業の方たちとの交流なども入れていければ良い。</p>
事務局	<p>自治会加入率について、本町では新興地域も高い傾向にある。特に、光台や精華台地域は、町開きをし、自治会結成のときに行政が関わらせていただいたこともあり、少し高い状況にはある。</p> <p>逆に旧村地域でも、もちろん高いところはあるが、一方で高齢化が進んでおり、役員を務めることができないことを理由に退会されるケースがある。自治会に</p>

	<p>どうやって加入していただくかという点は、現在の課題となっている。</p>
宗田座長	<p>自治会を、特に役員を担っていただく方はある程度高齢の方が多と思う。避難所に指定されている集会所などを開けてもらうのに、高齢の自治会役員の方が開けに行くというケースがある。自治会役員の方には、大変なご苦勞をおかけしている現状があり、地域コミュニティの再生を考えていなければならぬ。</p>
多々納副座長	<p>これまでの議論は多くは南部地域のことになるのではないかと。今回のまちづくりで考えると北部に目を向ける必要があると思う。</p> <p>精華町の防災マップを見ると、この地域の第一の懸念は木津川の氾濫である。また、煤谷川エリアも氾濫の危険があるが、どちらも北部地域の被災の度合いが高い。</p> <p>そのような災害時に、コンビニなどがすぐに機能すれば良いが、そうでない場合は、災害時の炊き出し機能として学校給食センターが機能することは非常に良いことだと思う。</p> <p>中越地震の後でも、地元の業者の方が頑張って、弁当を作って配ってということをやりにながら地域の人たちと復興に取り組んだということがあった。そのような事例からも、平常時だけでなく、災害時にも機能できるような施設があるのは良いことである。</p> <p>また、精華町には自衛隊があるのだから、自衛隊を頼りにすれば良いと思う。ただ、交流というキーワードになると、自衛隊とどのように交流をしていけば良いのかは分からない。例えば、自衛隊の力を上手く使うには何が必要か。折角、有効な力があるのに活かさないのであればもったいないことだ。</p> <p>もう1つ考えておかなければならないのは、災害時だけ役立つ機能はあまり意味がない。平常時からの役割や機能を考える必要がある。その点、学校給食センターはイメージしやすいが、打越台グラウンドと受援施設のつながりについては考えておく必要がある。例えば、災害時には社会福祉協議会がボランティアセンターを設置されるが、その受け入れ方や運営方法などがあると思うし、そのあたりの意向も踏まえた上で災害時のイメージを作る。また、平常時のイメージとしては、今、北部地域では何が重要かを考えていく必要があると思う。</p>
宗田座長	<p>今、多々納先生のお話の中で、防衛局や自衛隊と地元がどう付き合っていくのかということがあった。防衛局から来ていただいているので、何かご意見等あればお願いしたい。</p>
近畿中部防衛局	<p>今回の補助金については、防衛施設が存在することによる住民感情の緩和等に資するために交付される性質のものである。補助金による施設整備により、まちの機能や利便性が向上したり、自衛隊との交流に関連する施設整備により理解を深めていただいたり、そうすることで地域と防衛施設の共存を図るものである。</p>

宗田座長	<p>企業に関する話題で、その社員が精華町に住んでいない実態があるとのことであったが、自衛隊で町内在住の方の人数等が分かれば教えていただきたい。</p>
近畿中部防衛局	<p>今回、来させていただいているのは、防衛局の中でも補助金を所管する部署であり、防衛施設の詳細な人数やどこに住んでいるのかまでは把握できていない。</p> <p>防衛省の補助事業としては、まちの有事の際、防災の機能強化に関連するまちづくりについて補助金を交付するものである。議題となっている給食関連施設やグラウンドを防災や防衛施設にどのように関連付けて取り組んでいくのかという部分を考えていただければと思う。</p>
宗田座長	<p>補助金についてはもちろん重要であるが、地元住民からすると、何名ぐらいが勤務していて、そのうち在住者はどれぐらいで、自治会にも参加してくれるなど、これも重要である。災害時のこともあり、自衛隊は頼りになるイメージを持っていると思う。</p> <p>舞鶴市にも海上自衛隊や海上保安庁があるが、商店街でどう交流するかということを考え、割引券の発行や婚活パーティーの開催などにも取り組んでいる。そういう意味では、祝園の自衛隊の人数や年齢構成についても、まちづくりを考える上では念頭に置いておく必要があると思う。</p>
山本委員	<p>北朝鮮のミサイル発射が頻繁にあった2、3年前については、弾薬庫が狙われるのではないかという風評を聞いたことがあるが、その程度である。</p> <p>航空自衛隊の施設のあるまちでは、航空ショーなども開催されていて、今は非常に人気が高い。基地でイベントを開催したり、他の基地のイベントの情報発信をしたりということも考えても良いのではないか。</p>
近畿中部防衛局	<p>祝園弾薬庫については詳しくは分からないが、駐屯地の中には定期的に開放したり、お祭りを開催したりして、地域と交流する機会を設けている。</p>
山本委員	<p>精華町の第5次総合計画を見ると、非常に練られたものであり、コンセプトもしっかり書かれている。しかし、詳細な実行計画や毎年の予算になると、近隣のまちと同じようなものになってしまう。学研都市の中心地として、そのアイデンティティをさらに活かして発信できるような、アクセントのついたものにしてほしいし、今回のまちづくり基本構想についても、ソフトの面での工夫や知恵を入れ、アイデンティティのあるものとすべきである。</p> <p>防災の場合であれば、学研都市としての高度な技術を使ったもの。例えば、浸水害が心配であるなら、水位センサーを設置してリアルタイムで誰もが水位を確認できたり、土石の崩れに関しても最先端のセンサーで微細な動きも感知したり</p>

	<p>するなど、先端技術の試験をする場なども考えられる。</p>
事務局	<p>子育てに関連する情報について確認できたので報告させていただく。</p> <p>町内には保育所が5園あり、そのうち3園が直営で2園が公設民営である。こまだ保育所が町北部、ほうその保育所が町中部、せいかだい保育所とひかりだい保育所が学研の開発地にあり、いけたに保育所が最も開発の早かった桜が丘地域にある。</p> <p>福味委員からお話のあった子育ての支援センターについては、こまだ保育所に1箇所設置されている。</p> <p>子育てに関するNPOはあまりないようであるが、子育てサークルについては多数あり、福祉施設であるかしのき苑、子育て支援センター、各地区の集会所などで活動されている。</p>
福味委員	<p>確かに、子育てに限らずサークルなどが活発に活動していただいていると思う。しかし一方で、各地域でバラバラに活動している状況であり、おそらく近隣のまちになると保健所を拠点として、子育てや子どもの検診、高齢者のサロンや検診などを一体的に取り組んでいる。精華町にも保健センターはあるが、建物を借りており、手狭な状況もある。そこで、健康や福祉に関する総合的な拠点として一本化できれば、ここにいけば何でも相談できるし、情報もあるし、子ども、親、高齢者の交流にもつながるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>現在、精華町の保健センターについては建物を借りている状態であり、新たな保健センターの建設を進めたいという方向性はあるが、建設場所や財源確保について課題があり、検討しているところであると認識している。</p>
高鍋委員	<p>生涯学習の立場としては、絆という言葉を大切にしている。</p> <p>自衛隊に協力をお願いするのであれば、施設整備だけではなく、経験や体験を子どもたちに伝えていただきたいと思う。</p> <p>どこかで災害が起きても他人事で、災害が発生しそうな状況であっても、自分は大丈夫という感覚に陥り、結果として逃げ遅れてしまう。例えば、災害ボランティアなどに行けば、自分事として考えるきっかけになると思うが、小・中学生を災害ボランティアに連れて行く訳にもいかないことから、経験者に体験談などを語っていただく。それだけでもかなり意識は違ってくると思う。実際に、私自身がボランティアに行ったことで感じるどころがあり、人生観が変わった。</p> <p>また、防災講習に参加した際に、避難所の運営ゲームなどを通じて、問題となることについての議論をしたが、最終のまとめとして、その問題に対する答えはなく、考えることが重要だとのことであった。しかし、現実としては結論を出す必要があると思うので、より実践的な防災講習などにも取り組んで欲しい。</p>



宗田座長	<p>施設整備の支援も重要だが、防災拠点を作るのであれば、その拠点での防災に関する講演、災害派遣の経験のある自衛隊員に来ていただき、地元住民や小中学生に話をする機会を作っていただくという人的支援もお願いしたいという意見であり、非常に良い考えだと思う。</p> <p>さらには防災拠点を学習拠点として、ワークショップや避難所運営マニュアルの作成、先ほど出た避難所運営の際の問題点を具体的に話し合い解決していくようなこともできれば良い。</p> <p>そのようなことができれば、防衛施設のあるまちとして、他のまちにはできない防災研修ができる。</p>
近畿中部防衛局	<p>自衛隊員による講演や体験談などは可能だと思う。祝園弾薬支処に該当する方がいるかどうかは分からないが、周辺の部隊には災害派遣を経験しているところもあることから、広報活動を担当している部署と調整すれば十分可能と考える。</p>
山本委員	<p>施設を作ることが目的化してしまうと成功はしない。住民や地域として何が必要か、何をしたいかというソフト的な目的をきっちり落とし込んだものを作った上で、その結果としてこのような施設になったとすべきである。</p> <p>ベンチマーク（同類物で比較の指標となるもの）の一例として、舞洲にある汚泥処理施設に海外の建築家がデザインした煙突があったり、尼崎の商店街のシャッターに海外の芸術家が描いたスプレーアートがあったり、これらのような文化的なものもあれば、文化学術研究都市としてのアイデンティティになるかもしれない。そんなこともしつつ、打越台グラウンドでスポーツがあり、生涯学習施設もあり、自衛隊の災害派遣などの発信もあり、様々なイベントがあって、ソフトで盛り上がるような取り組みが良いのではないかと。</p>
井原委員	<p>学研都市に進出した企業と地域住民との距離があるように思う。そこを何らかの形で融合できれば精華町のコミュニティは発展していくと思う。私たち中小企業としては、まちづくりの仕掛けに取り組めるが、大企業の方々も賛同いただいで一緒に取り組むことができれば良いと思っている。</p>
宗田座長	<p>精華町の第5次総合計画策定の際に、進出企業の方と町長との対話のコーディネートをさせていただいたが、その企業の方が、自分たちの持つ高度なテクノロジーを精華町の子たちに教えるような活動をしたいとか、京都府温暖化防止活動推進センターでイベントをした時もオムロンなど大手企業が来られて環境教育をされていた。特に教育に関して言えば、協力していただけると思う。</p>
井原委員	<p>学研都市では、年1回展示会を開催しており、今年見に行ったところ、学校の先生の引率で中学生や高校生も来ていて、子どもたちに学研都市や企業の科学技</p>

	術に触れてもらう非常に良い取り組みだと思った。
山本委員	学研都市でも奈良になるが、奈良先端科学技術大学院大学でも子どもたちを対象に科学イベントを開催している。ソフトが魅力的であれば人は集まるし、子どもたちも喜ぶし、親も喜ぶ。
井原委員	防災に関連して、最近の子どもは何も無い所からご飯を作ることを知らない。山で遊んだり、火を扱ったりする経験が不足していると思う。自衛隊の方々を講師としてキャンプをやるなど、体験学習などもしていただければと思う。
宗田座長	精華町には、新旧地域の住民の方、先端技術を持つ学研企業、自衛隊の方がいて、これは精華町にしかない特徴であると思う。これをまち固有の理念になるような形でまとめ上げるという、それが「融合」という言葉として出ていたと思。この融合からさらに新しいものを生み出していくことを考える必要がある。また、施設整備についてはこれらのことを考慮して機能付加をすべきである。
多々野副座長	<p>防災、特に施設計画を考えるのであれば、実際にどのような機能が不足しているかという観点を持って議論する必要がある。今回の対象となっている北部地域、特に狛田駅周辺やその東側の旧集落の地域、また、木津川沿いの中部地域にもいくつか集落があるが、浸水害を考えると、いわゆる新興住宅地に比べて危険度も高ければ施設も十分でないという状況だと思う。このように比較的危険度の高い地域について、今回の整備によって光が当たり、少しでも安心につながるような取り組みが必要であると考え。</p> <p>また、災害時に避難情報を与えられたからといって、実際に避難する人は非常に少ない。例えば、堤防が決壊するとなった時には、消防団などが1軒1軒回って声掛けをすることで避難することが多い。あるいは普段から逃げることに慣れるような感覚が大切である。そういう観点で見ると、浸水域に住んでいる方にどのように安全に逃げてもらえるか、その上で、これは全域として考える必要があるが、避難された方に対して、最初の数日とプラス何日間かの避難生活をどうやって対応するかを考えておく必要がある。そこにプラスで自衛隊の方に支援いただく方法を組み込めるとなお良い。</p> <p>受援に関しては、熊本地震の時も課題となった。受援施設の整備や位置付けはもちろんあった方が良いが、それを十分に運営できるかという問題がある。また、そこで自衛隊とどう連携するのかという議論も必要である。</p>
宗田座長	自衛隊に期待を持つのは悪いことではないし、自衛隊の協力があって防災、災害対応ができるという認識を委員の皆さんは共有できていると思うが、住民の方にもできるだけ広くご理解いただきながら、自衛隊の方とも交流ができる施設でありたいと考えており、その点において防衛局のご支援をいただくという流れは

	<p>理解できるものだと思う。その上で、学校教育に資する給食、グラウンドなど生涯学習施設に関しても、防災機能を付加した防災拠点として整備していくということだと考えている。</p>
<p>■議題</p>	<p>2. 住民意向調査の実施について          &lt;「資料3」について説明&gt;</p>
<p>宗田座長</p>	<p>基本的には安全・安心の防災に関する意識調査が中心になっていると思う。これはもう実施中であるので、ここでの議論はまた結果が出てからということが良いと思う。</p> <p>もう少し議論を続けたいと思う。防災マップを見ると、避難所や避難協力施設などかなりの情報量が掲載されていて、かなり情報提供できていると思うが、実際に避難所管理はどうするのか、ボランティアとの連携はどうするのかなど、色々チェックしておくところはあると思う。防災の観点でもう少しお気づきの点などあるか。</p>
<p>多々野副座長</p>	<p>この懇話会の議論の内容と離れるかもしれないが、避難することについて、楽しくとか気軽にとか、少しそういう要素を入れておくと良い。避難時には、集会所に集まって無事を確認し、一緒にお茶を飲むとか、そういう文化のようなものがないと、避難しようと思わない。そういう要素を入れることで、避難することに対するハードルを下げる必要がある。</p> <p>特に避難しなくて問題となるのはお年寄りの皆さんなので、その方たちにどうやって避難してもらおうかが大切。</p>
<p>宗田座長</p>	<p>そこまで工夫をして高齢者の避難を促したいということだと思うが、確かに今年の倉敷の水害を見ると、それぐらいの発想の転換が必要かもしれないと思う。</p>
<p>■閉会</p>	<p>○宗田座長あいさつ</p> <p>今日は様々な課題を出していただき、精華町のまちづくりの目指すべきところ、どうあるべきかという議論が深まったと思う。</p> <p>また、今回は防衛省や自衛隊と縁があり、理解を深める機会でもあるので、防衛施設のあるまちとして、十分その趣旨を理解しつつ、皆さんと一緒にさらに議論を深めていければと考えている。</p> <p>本日は活発なご意見をいただき、皆さんに感謝申し上げたい。次回以降についてもよろしくお願ひしたい。</p>